



生物多様性…てなんだ？

しばらくのご無沙汰でした。少なくとも月1回の更新を目指していたのですが、2ヶ月ぶりという体たらくです。言い訳になってしまうのですが、個人的な事情や仕事が立て込み、なかなか時間がとれませんでした。特にこの1ヶ月間で3回ものプレゼンがあり、そのたびにパワーポイントでの資料作成に時間がとられてしまいました。そのうちの1回は茨城県の笠間日動美術館での講演です。同館では、平成22年6月5日から8月29日まで動物写真家・岩合光昭氏の写真展が開催されていますが、その間に県内の自然系博物館がリレー形式で講演会を開くという企画が持ちあがり、その第1弾としてかみね動物園から私が話すこととなったのです。タイトルは「動物園よもやま話」。動物園の動物たちの興味深いお話をしたのですが、その中で「生物多様性」ということにも触れました。

平成22年年は、生物多様性条約締結国会議（COP10）が名古屋で開催されることもあり、急速に生物多様性についての関心が高まっています。この地球には実に多くの生物がすんでいます。動物だけでいえば現在確認されているだけでも約200万種。実際には1000万種を超えるという話もあり正確な数は誰にもわかりません。仮に200万種としても、このうち哺乳類や鳥、魚など背骨のある脊椎動物はたったの3%。残り97%は無脊椎動物、いわゆる昆虫類や軟体動物、人にも寄生する円形動物など実に様々な生き物が多数派を占めるのです。このように様々な種類の生き物が絶妙なバランスを保って存在することで生態系やひいては地球環境が維持保全されてきました。



ぼくたちに罪はない



どっこいこれでも生きている

しかしこうした多くの生き物たちの生息環境は次第に蝕まれ、絶滅の危機にさらされています。ひとつの種が絶えることは、それに依存してきた別な種への影響、そしてそれを取り巻く生態系や環境の変化をも引き起こすことにもなります。その原因はなんといっても人間の社会・経済活動の延長にあることは言うまでもありません。過去の白亜紀に、自然環境の激変により恐竜を含む多くの生物たちが絶滅した時とは状況が異なります。私たち人間も、生物界では200万種のうちのひとつです。たった1種の生き物の活動がその他絶対多数の生物たちの存在を脅かし、地球環境に影響を及ぼすことがあってはならないことです。



ぼくたちはどこへ行くのか



遠くを見つめて

そうしたことにより、ようやく各国が気がつき始め、一刻の猶予もならない状況で今年COP10が日本で開催されることになりました。現在192ヶ国が条約を締結し、国の枠組みを超えた取組みが始まっています（アメリカだけは未締結）。高度に発達した私たち人類の英知が試されるときでもあります。平成22年の10月、全世界の目が集まる名古屋の動向に私たちも注目したいと思います。

（平成22年6月28日）

2010年6月28日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)